

## 【発表会で大好きなドラマ『今日から俺は！』を再現する】年長ひつじ組

### 場面① 演目決め

9月頃から「発表会で『今日から俺は！』をやりたい」と漏らしていたY君。

いよいよ発表会での演目決めの時期になり、クラスで何にするかの話し合いが行われました。しかし、『今日から俺は！』も案の一つとして出たものの、「やりたい」という子が3人くらいしかいません。

↓  
このままでは、『今日から俺は！』が出来ないかも…。

そこで、Y君は担任に「もう少し時間をくれ」と提案。

「Rちゃんは、理子役がいいと思う」

「H君は、『今日から俺は！』を知っているから、伊藤役をやってほしい」etc…

なんとY君が一人ひとりに声をかけてスカウトをはじめました！

Y君の努力のかいもあり、ついに12人のメンバーが集まりました。

(そして、もちろん発表会の演目として決定です。)

### 場面② ドラマ鑑賞会

12人集まったのはいいものの、原作ドラマを知っているのはたった3人。

そこで、子ども達からの提案で、ドラマの鑑賞会を行いました。

ストーリーはもちろん、登場人物たちの性格などを把握し、「この台詞を言ってみたい」「この変顔やってみたい」などと考えつつ、イメージを膨らませます。みんな楽しみつつも真剣に観ていました。



この顔マネした  
いな…。



次に、ドラマの公式動画を観ながら、実際に動いてダンスを覚えていきます。

忠実な再現を目指し、みんな真剣な様子。素晴らしい集中力で1時間以上も練習していました！



つっぱることが  
おとこの～♪

主題歌「男の勲章」を口ずさみながら♪



### 場面③ 配役決め&内容決め

ドラマを観て概要を掴んだところで、子ども達自身で配役を決めました。

子ども達の気持ちを尊重する為、くじ引きやじゃんけんは使わず、とことん話し合います。

その中で、どうしても役柄が重複してしまい、「片桐」という役柄が3人になってしまいましたが、それもまたご愛敬♪

配役と共に、劇の内容決め（台本作成）も行いました。

この台本も子ども達自身で決めました。保育者はあくまでサポート役で、子ども達の話し合いを聞きながら、全体の形を整える程度のことしかしていません。

鑑賞会を何度も行ったため、子ども達は自分の役がどういう役なのかをきちんと把握している様子。

分からない子は知っているお友だちに聞いて、情報を共有していました。

ここで、ちょっとした問題発生。

『今日から俺は！』というドラマの性質上、どうしても戦うシーンが出てきてしまいます。

「ドラマを忠実に再現したいから、戦うシーンは入れたい」

「でも危ないし、怪我をってしまうかも」

「そうだ、スローモーションでやればいいよ！」

子ども達の発案で、戦うシーンは動きをゆっくりにしたスローモーションで表現することに。

これなら、危なくない上に戦うシーンも表現できて万事解決です。

この台詞を言ったら、  
変顔をしたい！

戦うシーンはスローモ  
ーションでやろうよ



最後にダンスをして  
終わりがいいな

内容が決まったところで、タイトル決めも行いました。

子ども達からは「今日から俺は！～劇場版～」 「戦うツッパる男」 「ツッパる今日から俺は！」などの意見がたくさん出てきます。

本物と同じようにしたい…という気持ちを持つ「今日から俺は！」をそのまま入れたい派と、みんなで「今日から俺は！」のことを「つっぱるおとこ」と呼んでいたため、その言葉を入れたい派で、意見が分かれました。

その後、話し合いが難航。1時間近く話し合いをした結果、「2つをくっつけたらみんな納得できる」と、最終的に「今日から俺は！～戦うツッパる男～」というタイトルに決定しました！

「今日から俺は！」  
を入れたい

「つっぱるおとこ」  
を入れたい



#### 場面④ 衣装&小物作り

衣装やカツラなどの小物も子ども達自身で作りました。

ドラマの忠実な再現を目指しているので、衣装・小物作りにも一人ひとりこだわりが。



三橋役のY君が金髪のカツラを作成中。金色の毛糸がなかったため、白の毛糸を自分の納得のいく色に染めています。



H君は、伊藤役のカツラを作ります。ツンツン頭の再現に挑戦中。

#### 場面⑤ 練習風景

発表会までにみんなで集まって練習する時間ももちろんありましたが、それ以外の時間でも、自主練をする姿が見られました。

みんなが覚えられるようにと担任が台本を保育室の壁に貼っておいたら、その前で自主的に練習を始めた子ども達。

最終的には、保育士が担当するはずだったナレーション部分まで覚えてしまった為、本番のナレーションも子ども達が読むことになりました。



台本を見ながらセリフの練習中。

右のグループが左のグループのダンスを見ています。



本番直前のダンス練習風景。2グループに分かれてそれぞれのダンスを見せ合い、仕上がり具合を確認して最終調整。



## 場面⑥ 本番

ついに、本番当日です。

子ども達は、始まる前から早くやりたくて仕方のない様子。緊張している様子もなく、とにかくワクワクしていました。

公演中は、保護者の方の手拍子や笑い声も聞こえ、大盛り上がり。

おうちの方が喜んでくれたと子ども達も大満足の舞台となりました。



なんと劇中にあるナレーションのセリフ「ここ千葉でも…」を「ここ茅ヶ崎でも…」に急遽変更するというアドリブまで披露した子ども達。大きな達成感を感じられたようです。

### 【まとめ】

子ども主体の活動を行うことにより、当初保育者が想定していた以上の成果が出たように思います。

子どもの「やりたい」気持ちを大切に保育した結果、自分の考えを保育者や友達に伝えようとする姿が多く見られるようになりました。

意見がたくさん出る分、話をまとめていく段階で困ったこともありましたが、子ども達は時には譲りながら、お互い折り合いをつけ、話し合いを進めていきました。

リハーサルでは友達にセリフをそっと教える姿も見られ、心情面での成長も感じられました。

今回の実践を通して、子ども達は、友だちと一緒に活動することの楽しさ、助けたり助けられたりすることによる優しさや感謝、自分の思いを伝え相手の思いに耳を傾けることの大切さ、時には自分の思い通りに進まないことへの葛藤、そして、協力して活動を成し遂げることの素晴らしさや心地よさを感じることができたのではないのでしょうか。

子ども一人ひとりの発達過程は様々ですが、主体性を大切にすることこそが、彼らの将来を大きく花開くものとしてくれることでしょう。今後も、子ども主体の活動を大切にしていきたいと考えています。